

制定日 2016年4月 1日

Safety Data Sheet
安全性データシート

株式会社コベルコ科研
兵庫県高砂市荒井町新浜 2 丁目 3-1
担当部門 ターゲット事業本部技術部
電話番号 079-445-9024
FAX 番号 079-445-9025
緊急連絡先 同上

1. 品名

タンタル

2. 危険有害性の要約

GHS分類	項 目	Ta
物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分4
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入・ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入・蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入・粉塵、ミスト)	分類できない
	急性毒性(吸入・粉塵、ミスト)	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない
ラベル要素	絵表示又はシンボル	
	注意喚起語	警告
	危険有害性情報	飲み込むと有害(経口) 眼刺激 呼吸器への刺激の恐れ

GHS分類	項目	Ta
ラベル要素 (続き)	注意書き	<p>【安全対策】 粉塵、ヒュームを吸入を避けること。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。</p> <p>【救急処置】 取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。 吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で、休息させること。 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。 飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>【保管】 施錠して保管すること。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。</p> <p>【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>
	国・地域情報:	-----

3. 組成・成分情報

単一物質・混合物の区別	単一物質
化学名	・タンタル
化学式または構造式	Ta
官報公示整理番号 (安衛法、化審法)	-----
CAS番号	7440-25-7
国連分類および国連番号	-----

4. 応急措置

目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	付着または接触部を石けん水で洗浄し、多量の水を用いて洗い流し、速やかに医師の診察を受ける。
吸入した場合	直ちに被災者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気のある場所に移し、速やかに医師の診察を受ける。呼吸困難または呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行う。
飲み込んだ場合	意識があるときは吐かせて口の中の水をよく洗浄する。直ちに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の配置消火剤

消火剤	乾燥砂、黒鉛粉、塩化ナトリウムを基剤とする消火剤のG-1(R)あるいはMet-L-X粉末・水、泡消火薬剤、二酸化炭素は使ってはならない。
火災時の特定危険有害性	火災によって刺激性又は毒性のヒュームを発生するおそれがある。 ・粉末又は細粒の場合 熱で容器が爆発する恐れがある。 摩擦、熱、火花及び火災で、発火する恐れがある。 激しく加熱すると燃焼する。 特に密閉環境(建物、荷物用倉庫等)では、極めて危険な爆発の恐れがある。 粉じん又は煙霧は空気と爆発性混合気を形成する恐れがある。
特有の消火方法	金属火災には水ではなく、密閉法、窒息法消火が望ましい。 消火が不可能なら、周辺を防護してそのまま無くなるまで燃焼させる。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 適切な保護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 風上に留まる。低地から離れる。 作業者は適切な保護具(第8項参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項:	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 希釈水は汚染を引き起こす恐れがある。 希釈水は腐食性又は毒性があり汚染を引き起こす恐れがある。 環境中に放出してはならない。
回収、中和:	漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。
封じ込め及び浄化の方法・機材:	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策:	床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	技術的対策: 第8項記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 局所排気・全体換気: 第8項記載の局所排気、全体換気を行う。 安全取扱い注意事項: 粉末又は細粒の場合周辺での高温物、スパーク、下記の使用を禁止する。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために廃棄用の換気を行うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 接触回避: 第10項を参照
貯蔵	技術的対策: (粉末又は細粒の場合) 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 混触危険物質: 第10項を参照 保管条件: (粉末又は細粒の場合) 熱、火花、裸火のような着火源から話して保管すること。ー禁煙。 酸化剤から離して保管する。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。 容器包装材料: 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	-----	
許容濃度	ACGIH(2006年) Ta: TLV-TWA 5mg/m ³	
設備対策	(粉末又は細粒の場合) 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 高熱工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。	
保護具	呼吸用保護具:	吸保護具の使用の要求される環境下では、呼吸保護具を着用する。
	保護眼鏡:	適当な保護眼鏡もしくは安全眼鏡を着用する。
	保護手袋:	皮膚の露出を防ぐために適当な手袋を着用する。
	保護衣:	皮膚の露出を防ぐために適当な保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観等	黒色
沸点:°C	5425°C
蒸気圧:Pa(20°C)	1 Pa (3024°C)、 1 kPa (4122°C) 、 100 kPa (5361°C)
揮発性	情報が入手できません。
融点:°C	2996°C
比重または嵩比重	14.5
溶解度	水%(°C):不溶 その他の溶媒%(°C):
その他	-----

10. 安定性及び反応性

引火点:°C	情報が入手できません。
発火点:°C	情報が入手できません。
爆発限界:上眼% 下眼%	情報が入手できません。
可燃性	情報が入手できません。
発火性(自然発火性・水との反応性)	>250°C
酸化性	情報が入手できません。
自己反応性・爆発性	情報が入手できません。
粉じん爆発性	情報が入手できません。
安定性・反応性	耐酸性及び耐熱性は極めて高い。 フッ化水素酸、フッ素ガス、三酸化硫黄以外の薬品には著しく耐食性が強い。 酸素の存在下で高温に過熱すると酸化されて五酸化物Ta ₂ O ₅ になる。 硝酸とフッ化水素酸混合溶液と反応し、含フッ素錯塩を生成する。 高温では熔融アルカリに徐々に侵されて、種々の非金属類と反応する。
その他	避けるべき条件: 粉じんの発生 混触危険物質: 酸素、ハロゲン類、強塩基類、フッ化水素との接触。

11. 有害性情報

腐食性	情報が入手できません。
刺激性(皮膚、眼)	物理的刺激の可能性との記述あり(区分2Bとした)。 眼刺激
感作性	情報が入手できません。
急性毒性 (50%致死量を含む)	経口:マウス経口LD ₅₀ 値(595mg/kg)より、区分4とした。飲み込むと有害(経口) 経皮:データなし。 吸入(蒸気):データなし 吸入(粉じん):データなし
亜急性毒性	情報が入手できません。
慢性毒性	情報が入手できません。
がん原性	情報が入手できません。
変異原性 (微生物、染色体異)	情報が入手できません。
生殖毒性	情報が入手できません。
催奇毒性	情報が入手できません。
その他(水と反応して有害なガスを発生する等を含む)	水とは常温で、徐々に反応し水素を発生する。

12. 環境影響情報

情報が入手できません。

13. 廃棄上の注意

再利用のため回収します。

14. 輸送上の注意

キズが付きやすいので落下させたり、衝撃を与えたりしないでください。

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(政令番号 第338号)
労働基準法	特定できず
毒物及び劇物取締法	特定できず
消防法	第2類可燃性固体、金属粉(法第2条第7項危険物別表第1)
危険物船舶運送及び貯蔵規則	可燃性物質類・可燃性物質
PRTR法	非該当

16. その他

その他 (記載内容の 問い合わせ先、 引用文献等)	記載内容の問い合わせ先	株式会社コベルコ科研
	引用文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ACGIH発行TLV_s[®] and BEI_s[®]2005 ・厚生労働省:職場の安全サイト http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx ・安全衛生情報センター http://www.jaish.gr.jp/ http://www.nihs.go.jp/ICSC/ 他
	改訂履歴	Rev.0:新規制定

*危険・有害性の情報は十分ではありません。また、本文書は安全の保証書ではありません